

令和5年度第2回古賀市総合政策検証会議 議事要旨

【開催概要】

開催日時：令和5年10月23日(月)19:00～20:40

開催場所：古賀市役所第1委員会室

出席者：

(委員) 南委員長、豊貞副委員長、橘委員、長委員、鶴委員、伴委員、文屋委員、藤井委員、宮原委員、吉岡委員、清水委員、松見委員、三戸委員

(事務局) 田辺市長、野村副市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、建設産業部長、教育部長、経営戦略課長、財政課長、管財課長、人権センター課長、福祉課長、健康介護課長、子育て支援課長、学校教育課長、経営戦略係長、経営戦略係員

【議事・要旨】

1. 委員長あいさつ	
2. 委員紹介	事務局：資料1に基づき説明
3. 審議事項	<p>(1) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2～6年度)令和4年度実績に関する検証</p> <p>事務局：資料2、資料2-1に基づき説明 ＜委員からの質問事項＞</p> <p>【基本目標 I. しごとの創生】 (質問)</p> <p>基本的政策(4) 魅力的な就業環境と担い手の確保 施策③</p> <p>快生館での外部人材の導入を図るための取組として、「企業合宿の利用やワーケーションの推進」と記載があるが、ホームページでワーケーションについては拝見したが、企業合宿の利用などについては事例があるか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>令和4年度については、特に国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し進出企業の定着や地域の活性化に向けた取組を行った。その中で、快生館のワーケーションの取組も一つの事業と位置づけて実施しており、日帰りのワーケーションだけでなく企業合宿の形式をとる複数日のワーケーションについても、多数の企業に利用していただいている。</p> <p>(質問)</p> <p>基本的政策(3) 農林業の活性化と持続可能な発展 施策④</p> <p>ふるさと納税を活用したクラウドファンディングと記載があるが、このクラウドファンディングでいくらぐらい資金が集まり、何人の方にどれぐらい配布や補助されているのかという事業規模はどれぐらいのものになるか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>いわゆるクラウドファンディングを古賀市のふるさと納税のスキームを活用し、一旦市のほうに寄附いただくような形になる。その原資をもって、翌年度その方に対</p>

し行いたい事業内容等に支援をするというような流れになる。

新品目の生産に取り組む女性農業者についての記載している内容は、花卉農家がドライフラワー化をしていきたいということで、それに対しての乾燥機などの購入の支援について行っている。

(質問)

基本的政策（1）地域産業の振興と競争力の強化 施策③

企業版ふるさと納税に今年度古賀市は登録されていないようだが、何か理由はあるか。

→ (回答)

企業版ふるさと納税の検討はしているが、まだ現時点で活用の実績はない。来年度この第2期古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度となっており、第3期の総合戦略を策定するか、また国の構想にあわせデジタル田園都市国家構想に基づく総合戦略を策定すべきかは今まだ検討中だが、こちらの中で、企業版ふるさと納税についても活用の方法を検討していきたいと考えている。

(質問)

基本的政策（3）農林業の活性化と持続可能な発展 施策③

コスモス館の売上について、2020年KPIが5.0億円/年ということだが実績値は残念ながらだんだん下がってきている。R4年度実績の欄の記載を見ると、組合員の高齢化によって出荷量が減少している。新規就農者は増えているが、なかなかすぐには安定的な職は難しいかと思われる。記載の中に、「売上高の増加をめざすための検討を行っています。」と記載されているが、この具体的な内容があれば教えてほしい。

→ (回答)

現在古賀市では確かに高齢化による離農が進んでいる。それにより生産量、コスモス館への出荷が減ってきている。コスモス館では日常的に野菜などが販売されているが、古賀市の農家の状況を見ると、大規模でされている農家はコスモス館より大きなところへ出荷している現状があり、商品をもう少し検討しないとなかなか売上が上がらない現状である。その他、顧客を導く方法により売上を上げつつ、コスモス館が活性化されたら農家の方も出荷するというサイクルになると思うので、その方法について検討を進めている。

【基本目標 II. ひとの流れの創生】

(質問)

古賀市としては転入超過を、目標値としてはどれぐらいと考えているのか。転入者をどっと増やそうと思っているのか。いろいろ見ていくとそのような感じではなく、福津や新宮のようにマンションなどを誘致して増やすというよりは、いわゆる子育て世代や、20代から40代の年齢構成の割合を増やし続ける、そこを充実させていくような方針に感じるが、その受け取り方で正しいか。

→ (回答)

転入者数については年間 3,000 人を成果目標としている。また第 5 次総合計画の最終年度である 2031 年に、6 万人規模を維持するというので大枠を持っている。それ以外に関しては子育て世代の転入はもちろんめざしているの、そこに力を入れて政策を打っていくという流れで進めている。

(再質問)

評価の欄で「大規模な住宅開発やマンション建築などがない限りこの傾向は今後も拡大していく」と記載があり、転出が増えていくと 2 年続けて評価されているが、転入者を増やそうと思えばやりようがあるのではないか。維持するのであれば、その方針がもう少しはっきり出ているとこのような評価も出てこないのではないか。市の方針と矛盾しているように感じる。

→ (回答)

基本的な考え方として、かつての時代のような大規模な開発行為、住宅開発行為等を多々やって、人を呼び込むということは選択肢としてとっていない。これは国家全体で人口減少社会にある中で、古賀市だけが人口が増えればいいという観念に立っていないためである。その上で、特定の世代層が一気に流入するという事態は持続可能性を減ずると考えている。ある程度の人口規模はきちんと維持しなければならず、世代間のパーセンテージがある世代だけ肥大化する、例えば待機児童が解消しない、40 年後に高齢者ばかりになるなど、こういったことを古賀市は生じさせないような施策をとっているというのが大きな考え方。その上で、御指摘の大規模な住宅開発でマンションの建築というのは、時間軸としては 5~10 年単位を要する。都市開発をするために都市計画等をつくる、このために既に 2~3 年かかったり、地権者との調整を考えると 5~6 年たったり、そこから何とか実現していくという話になる。10 年の長期計画の 10 年後の姿として現在の人口規模 6 万人程度を維持するというものを掲げている。現在都市開発を一気に 6 箇所実施しており、そのうちの 1 つは、古賀中学校周辺の住宅、居住環境を整備するための開発を想定して進めている。あわせて古賀駅東口の都市開発を進めている。これらはいずれもこの 10 年以内に、何とか具現化し、こういった一定程度の大規模な開発があれば、今はやや減じているが、10 年後に福岡都市圏の利点を生かして、6 万人規模は結果として実現できるだろうという想定のもとに人口政策を進めている。

(再々質問)

回答いただいた施策はとても良い施策だと思う。しかし、資料の記載内容を見ると評価した方に充分伝わっておらず矛盾が生じているように感じる。方針が評価する方にも伝わるような形でやったほうが市民も分かりやすいだろうと感じる。

→ (回答)

一緒にやっている者としてこういう表現になるのも理解できる。大規模な住宅開発やマンションの建築などがない限りというのは、恐らく念頭に置いているのが古賀中学校周辺の新久保南エリアの開発。今、進めようとしているということを筆者は

理解しているだろうと推察したし、マンションという文言は西口でも民間開発が進んでいるが、東口で都市開発を進めているということが念頭にあってこの文言を使っていると理解をした。一方でそうした背景、広く浸透していない可能性もある中でこれだけを読むと、今御指摘いただくような評価もあり得るのかなとも受け止めたので、日本語もっと上手に使っていこうよということは市役所の中でもしっかり伝えていきたいと思う。

(質問)

基本的政策（２）絆づくりによるつながりの拡張 施策④

令和５年１月にLINE公式アカウント開設とあるが、登録者数はどのくらいか。

→ (回答)

現時点で登録者数は6,853人

(再質問)

こちらのLINEの登録を促すために広報紙のほかに何か取組をしているか。

→ (回答)

LINEの利用促進のための周知啓発については広報誌での周知のほかに、市のイベント、例えば、なの花まつりやさくらまつり、食の祭典などにブースを出展し啓発を行っている。また個別の利用の手続を1つずつ職員が手作りで増やしているところで、1つの機能を実装したらその利用者の方々に声かけをし、そこでも登録をしていただく流れになる。具体的には今年、教育委員会のほうで英会話教室を夏休みに行っており、LINEでの申請機能を実装しLINEでの申込み受付をした。そちらの取組はテレビなどでも紹介された。

(質問)

基本的政策（２）絆づくりによるつながりの拡張 施策③

Facebook、Twitter（現X）への投稿数を増やしたとあるが、古賀市はInstagramやThreads、TikTokはしていないのか。

→ (回答)

古賀市で活用しているSNSは、Facebook、TwitterのほかにInstagramを「ここ古賀グラム」という名称で運営している。その他TikTokなどは活用していない。

【基本目標 III. ひとの支援の創生】

(意見)

基本的政策（３）ワークライフバランスの実現 施策①②

「固定的性別役割分担意識等の意識改革」との記載が、記載内容の主語が全体的に男性になっている。男性が子育てに参加するということで、もう少し女性のキャリア意識や、こういうことで諦めている女性がすごく多いと思うので、男女共同参画と言っている割に男性が主語に見えるところがあるので、表現をもう少し変えていただ

ければと思う。

→ (回答)

今後修正ができる箇所は意見の形で修正を考えていきたい。

【基本目標 IV. まちづくり創生】

(質問)

基本的政策 (3) 安心して暮らせるまちづくり 施策②

令和 4 年度実績に「市防災メールの多言語・やさしい日本語での配信や防災ゲームアプリの実証実験などに取り組み」とあるが、やさしい日本語での配信というのは、どのぐらいの外国籍住民に配信されたのか。これも実証実験の 1 つであれば、この実証実験の結果というのはどういうものだったのか、成果等について伺いたい。

→ (回答)

数字等が手元にないため後日回答とさせていただきます。

※回答は【資料】後日回答事項のとおり

(質問)

重要目標達成指標 (KGI) の「古賀市は住みやすいと感じている市民の割合」と「今後も市内に住み続けたいと思っている市民の割合」のところについて、伺いたい。基準値の 2019 年では、その差が 15% だったのに対し、令和 4 年度は 20% に拡大しているが、拡大している理由をどのように分析しているか。

→ (回答)

どちらの数値も上昇しているため一定の成果はあると分析している。ただし委員指摘のとおり、「今後も市内に住み続けたいと思っている市民の割合」の上昇率は、「古賀市は住みやすいと感じている市民の割合」よりも少ないことから、こちらについては引き続き推進が必要であると考えている。具体的な分析としては、全体的に言えることだが就学期や就業期において、都市圏のほうに転出される方が一定いらっしゃることから、市内の魅力的な就業環境の形成等により、住み続けたいと思っただけのように努めていきたいと考えている。

あわせてアンケート結果の住みやすい理由では、「大きな災害が少なく安心できる」、「自然環境がよい」、「日常の買物が便利」、「交通の便がよい」というデータになっている。ただし交通の便等は、山間部に行くと逆転の数字が出ているので全体としてはあくまでもこのような理由が上位を占めているという状況である。

(再質問)

住み続けたい理由の大きなものとして就学就業というものが大きなファクターであると考えていると理解してよいか。

→ (回答)

アンケート結果については、実際その理由までは分析する項目がないので、あくまで仮説を立てての検証となるが、今後この観点から施策の推進を図っていきたいと

考えている。

(質問)

同じく重要目標達成指標 (KGI) について、逆に住み続けたくない理由は何か出てきているか。

(回答)

一部の行政区で子育て環境に不満があると出ているが、詳細は分かっていない。あるいは舞の里や山間部については、公共交通が不便だと出ているので、その部分については今後強化していこうと考えている。

(再質問)

どの地域の住民が転出しやすいといったデータはあるか。

→現在持ち合わせていないが、行政区ごとの人口の推移は把握できるため分析は可能である。

(意見)

何か対策を打つにしても地域ごとの特色が恐らくあると思う。KPI や KGI はこれをする目標が達成できるよねっていう目標値としても定めるが、これがうまくいかなかったからこの目標が達成できなかったよねという原因分析に使うので、KPI 設定する際になぜこの KPI が設定されてこの KPI が達成されると何がよくなるのかという因果関係も整理すると目に見える政策、科学的な政策が打ちやすくなるかと思う。

(質問)

全体的に市民アンケートとあるが、取りたい母集団から出てきている、例えば年齢層の偏りがいいのかなどサンプル数のところの背景があれば教えていただきたい。どうしても市民アンケートになると、年齢層や回答する方の母集団を反映できているのかというところがあるので回答いただきたい。

→ (回答)

アンケートは令和 4 年の 10 月に行い、3,000 人の方に送っている。送る時点で年齢層が均等になるように配布した経緯があるので、基本的には回答も満遍なく戻ってきている状況であり回答率は 50%程度であった。

(再質問)

そうすると母集団との偏りがいないということでの推計値で、例えば住みやすいと感じている市民の方が 82%というような状況ということでしょうか。

→ (回答)

そのとおり。

(質問)

今の回答について、回収したものが母集団の年齢構成と偏りがないと。もしそうだとするならばすごいことだと思うが、本当にそうなのか、手元にデータがあれば確認

	<p>して欲しい。</p> <p>→ (回答)</p> <p>失礼しました。10代20代は少ない数字が出ている。参考までに70代以上23%、60代21%、50代16%、40代18%、30代13%、20代6%、10代約1%ということで10代20代は参考値としては少ないサンプリングになっている。</p> <p>(意見)</p> <p>今のサンプルが古賀市の年齢層と乖離がないのかなどを考えての住みやすいと感じている方が82.5%、市内に住み続けたい方が62%なのかなどの解釈が必要になってくると思う。</p> <p>(質問)</p> <p>資料中に直接記載はないが、西口エリアの活性化の一環で「るるる」が本格的にオープンされ、すごくいいなと思っているが、「るるる」に隣接している駐車場はどこが管理されているものか。(株)4WDの管轄になるのか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>民間の第三者が管理している。(株)4WDは「るるる」の建物のみ管理している。</p>
	<p>(2) 財政状況について</p>
	<p>事務局：資料3に基づき説明</p> <p><委員からの質問事項></p> <p>なし</p>
	<p>(3) 人口について</p>
	<p>事務局：資料4に基づき説明</p> <p><委員からの質問事項></p> <p>(質問)</p> <p>政策を考える際に1番重要なのが年齢別構成比だと思うが、そのデータはあるか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>手元にはないが、福岡県のビッグデータから取得できる。</p> <p>(意見)</p> <p>今後人口関係のデータを示す場合は年齢別構成比のデータも示してほしい。</p>
	<p>(4) 公共施設の状況について</p>
	<p>事務局：資料5、参考資料1に基づき説明</p> <p><委員からの質問事項></p> <p>【古賀市の公共施設における概要】</p> <p>(質問)</p> <p>上下水道等のインフラは延床に含まれていないのか。学校教育施設、公営住宅、社</p>

会教育系施設で全体の約 75%と記載あるが、残りの 25%にインフラ系が含まれるのか。

→ (回答)

インフラ系は含まれていない。詳細は【資料】施設分類表のとおり。

【市民体育館】

(質問)

地図を確認すると市民体育館にリーパスプラザや図書館などが隣接しているが、それらも含め考え直しているということか。

→ (回答)

JR 古賀駅東口開発に伴う新規道路案は、リーパスプラザ等の建物に影響はない形で法線のイメージを持っている。まだ明確ではないが、リーパスプラザの駐車場にはかかってくるというイメージを持っている状況。

(質問)

他市町の施設を利用する方向があってもよいのではという説明もあったと思うが、古賀市の体育館の場合は古賀市の住人が利用者の中にいることなどの条件があったのではないと思う。他市町の体育館等にも同じような条件が仮にあるとすれば、他市町との協議を前提に考えていただかないと利用していた人がほかに行くにも行きどころがないのではないか

→ (回答)

他市町の施設利用は例えばの話で出させていただいた。例えば他にも古賀市には、学校の体育館やクロスパルこがという体育館がある。そこは市外の方も利用されているので、そこを市民優先に変えてといった手法などもある。他市町の施設利用の例えは、自治体によっては過大な体育館を持っている自治体もあるかもしれないという意味で説明させていただいた。

(再質問)

他市町の施設利用については個々の住民である私たちにはどうしようもないところがあると思う。市のほうで他市町と協議をするという前提があると思ってよいか。

→ (回答)

例えば福岡都市圏においても、福岡都市圏の一体として何かできないかと協議会を形成している。もしくは糟屋地区という枠組みでも、検討はできると思う。例えば図書館の本は都市圏全体で、他市町の本を古賀市民が借りることができる仕組みもつくっているの、できることはあると思う。体育館の利用がそれになじむかは別の議論だが他市町と協議するベースはある。

	<p>【千鳥苑】 なし</p> <p>【浄水場】 なし</p>
	<p>(5) 第5次総合計画アクションプラン（令和6～9年度） 政策・施策ごとの現状と課題の整理</p>
	<p>事務局：資料5、資料6に基づき説明 ※本会議では説明のみ。質問、意見は後日受付。</p>
	<p>(6) 全体を通して</p>
	<p>(意見) 市のSNSチェックしているが、今年に入りより様々な投稿があつてすごく良い。特にInstagramの動画が分かりやすく、面白いので今後も同じようなペースで続けていってほしい。</p>
4. その他	事務局：次回の審議会の日程調整の案内
5. 市長あいさつ	